

第 1 回ニセコ町総合計画見直し検討委員会 会議録（概要）

日時：平成 28 年 2 月 4 日（木）15:00～17:00

場所：ニセコ町民センター 研修室 1

参加者：（別紙）

●町長あいさつ

- ・ 第 4 次総合計画「小さな世界都市ニセコ」から、第 5 次総合計画「環境創造都市ニセコ」への深化に込めた思い
- ・ 環境モデル都市を目指す取組みと、自治創生に向けた取組みに共通する思いとしての住民自治
- ・ 人口戦略は、自治創生に規定されて行うものではなく、第 5 次総合計画そのものが当初から内包していた視点としての人口対策を、今回、組み込んだ。

●委員自己紹介

（省略）

●委員長・副委員長の互選

～事務局提案が、承認された

- ・ 委員長：齊藤 海三郎さん（公募から）
- ・ 副委員長：高井 裕子さん（女性から）※本人欠席のため、後日事務局より依頼し承諾。

●議長（齊藤海三郎委員長）からのあいさつ

- ・ 委員としても意見は申し述べたいので、その方向で進めさせていただきたい。

●資料説明（事務局より説明）

- 資料 1：ニセコ町第 5 次ニセコ町総合計画の概要について
 - 資料 2：町民アンケートの実施結果について
 - 資料 3-1：ニセコ町総合計画全体の進行状況
 - 資料 3-2：アンケート調査結果に基づく論点の整理（評価ポイント）と課題の構造
 - 資料 3-3：第 5 次ニセコ町総合計画 環境創造都市ニセコ 第 1 次見直し版案
 - 資料 4-1：「ニセコ町自治創生総合戦略」の位置付け（案）
 - 資料 4-2：ニセコ町総合戦略骨子（案）
 - 資料 4-3：ニセコ町総合戦略骨子（案）概要
- ～以上について、それぞれの資料の要点について、一括して説明した。（内容省略）

●質疑応答

○坪井：3-2 についての質問

- ・ 地区別の特徴を課題としているが、全町的な評価低下については派生課題にならないのか？
→特に地域差を顕著な視点として作成した資料であり、全町的課題を無視するものではない。

○齊藤：3-1 についての質問

- ・ 実施計画の庁内評価結果については、何処まで実施されているのか。記載されているのか？そ

れとも、今後いつかの時点で出てくるのか？

→これから、庁内各担当者によるローリングの中で、これまでの実施状況に対する評価が出てくる。次回、その内容に関する資料を出したい。その際は、細かくというより、大きな括りの一覧表の形で出したい。

●意見交換

① 総合戦略を基本計画の11番目「住民みんながまちづくりを考え、活動します」に含めることの是非について

佐々木眞理：11の戦略ビジョンの内容は、いつの時点で作成したものか

→4年前に総合計画を策定した時に、作成したもの

牧野：その中に含める、ということであるが、具体的な表現は、どうなるのか？

→方向性としての確認だけ今回了解してもらえれば、次回、具体的な表現を出したい。

斉藤：総合戦略の事業内容は、1～11に横断的にかかるということだが、どうまとめているのか？

→総合戦略の事業内容のうち、総合計画の戦略ビジョン1～11のそれぞれに関連する事業内容は、アンダーラインを付して、既に総合計画見直し案として記入してある

斉藤：事務局提案通り、「11住民みんながまちづくりを考え、活動します」に入れることで良いか？

全体：（了解）

②様々な領域に関する、自由な意見交換

牧野：第1次見直しにおける論点から（平成27年度）（162ページ）の商工会に関連する記述について、納得いかない部分がある。

商工会としては、ビジネスモデルを探している。担当課長も、自分の意図したことと表現が違う、とのことだった。町は商工会の活動を支援し伴走していく立場であると思う。これからも意思の疎通を図って行きたい。

関連して、62ページのアンダーライン（戦略推進プランの商工業）部分について、趣旨から外れているものがある。

例えば、産業競争力強化法云々は、小規模事業者支援に関する制度ではないので、ニセコ町の商工業の実態にはマッチしない。小規模事業所の支援にマッチする事項を盛り込むべき。また、商工会では経営発達支援計画を策定し、中小企業庁の認定を受けている。その計画で取組む事業についても、総合計画内に盛り込むよう検討いただきたい。

佐々木眞理：南西地区出身の委員は？

→斉藤さんが住民、牧野さんも生まれが南西地区。

牧野：南西地区は、従来から蘭越町（昆布）とのつながりが強いので、その意識が反映しているのではないかと。そもそも、地区別に分けて評価する考え方に、問題があるのではないかと。全国から移住がある現在、地区単位で考えるべきか。今後は、地区別に区別する必要はないのではないかと。近藤小学校の存続に、疑問も感じる。

齊藤：地区別の分析が、しっくり来ない。何処の地区でも、同じではないか。牧野さんのご指摘に、同じ意見。満足度の変化・推移を分析するのであれば、デマンドバスに不満がある。申し込んでも断られる人の割合が、実際に南西地区に多いのかどうか、はっきりしない。138 ページの差異（第1次見直しアンケート調査の集計表）の表記は、%でなくポイントにすべき。また、アンケートの質問の構造が、理解できないところがある。個別項目の評価と全体項目の評価が、大きくズレることがあって、理解しがたい。

牧野：高速交通網について、有島地区だけが飛び抜けて評価が高くなっているのは、何を意味しているのか？この質問をすることに、意味があるのか？

→有島地区のデータの背景については、よくわからないのが実態だ。

平島：地域資源や地区コミュニティについては、地区別視点は必要だが、高齢化・独居が増えて、見守りに対する不安は全町的な傾向だ。これからは、高齢者の問題を全町的な視点で捉え、サービス面や交通の面（福祉輸送やデマンドバス等）など高齢者が安心して暮らせる支援体制を考える必要がある。介護保険法の見直しなどあり、地区別だけでは対応できない課題が生じている。また、障害者差別解消法の施行に伴って、商店や観光など多方面にも関連してくる観点になるのではないか。

竹石：近藤地区のコミュニティ活性化の要因については、小学校の存在だけでなく、キーマンの存在が大きな意味をもっている。今後もキーマンを育てることは、必要と思うが、その方策はないか。引き継いできているが、組織だっておらず脆い部分がある。キーマンは、義務感ではなくおもしろがって関わってくれている。

首都圏との連携の点で、東京ニセコ会の存続に向けた、次の世代の後継者育成も必要。

再生エネルギーについて、ニセコ町としてどの程度必要なのか、どの程度対応できそうなのかについて、将来像を描けているのか？

→削減目標を掲げているので、主要な排出源となっている事業所などへの協力を要請している。

また、草の根運動で盛り上がっていく必要があるので、その方策について検討していきたい。

鈴木：東京ニセコ会への支援の在り方の中で、金銭的支援も必要なのではないか。倉庫群イベントなどにおいても、ボランティア（無償）だけの活動の継続には限界があり、事業をきちんと回していくには、お金が入る仕組みが必要ではないか。

デマンドバスは良い事業だけど、うまく回っていない。事業利益が上がる仕組みにならないと、継続できない。例えば、夜間デマンドバスなどもいいのではないか。ラジオニセコの運営についても、同じ視点が必要。交通網と情報共有に共通に絡む視点として検討すべき。

日野浦：ニセコ町では、教育振興基本計画の中で、学校間連携、幼小中高一貫教育の準備を進めている。住民の立場から、地域と連携するコミュニティスクールに、住民のボランティア参画の可能性を探っている。ここから、各方面に広がっていく。ニセコ町には、すぐれた人材が多くいる。ネットワークづくりが大切ではないか。交通網と情報共有の二つが重要だ。

デマンドバスの予約対応など、利用実態の具体化の把握が必要。地区ごとの細かい視点で

はなく、全体的な視点が必要。

竹石：コミュニティ助成金などの良い制度に関する情報が、活動する地域住民に知られていない。情報提供に向けた一元的な窓口など、提供システムがあれば良い。

→そのような情報窓口は、住民活動にとっても有益と思うので、検討したい。

上野：幼児センターに子供を2人預けている。ニセコ町は子育てしやすいまちだが、幼児センターと子育て支援センターの役割を、もっと充実させる必要がある。週末に働いているお母さんたちにとっては、週末の子供の預かりを希望している（場所は幼児センターでなくても良い）。サービス内容の充実、たとえば、産前産後のケアが可能な仕組みも必要。送迎バスや子育てヘルパー、病児保育もあると良い。

安岡：アンケートを見ても、商工会青年部の自分にピンポイントで当てはまる場所がない。商工業についての満足度評価は低い結果だが、ニセコ町民は、ニセコ町では必要なものが揃わないと頭から決めつけているのではないか、と思う。綺羅街道の商店街はほぼ壊滅状態に近いので、対策のアイデアが欲しい。青年部では、花火大会を30年程前から開催している。小さな子どもたちに夏の思い出を作ってあげたいというコンセプトだが、子供が大人になってニセコに戻って来てほしいという狙いもある。

佐々木眞理：福井県鯖江町では、高校生の社会活動参加が、進んでいると聞く。高校生を活用する視点も大切ではないか。自治創生の最小単位は町内会であり、自分のいる東山町内会でも町内会の皆さんに支えられている。相互扶助の考え方が、11番目の柱の中に入ると良い。

坪井：交通網について、在来線函館線の存続運動は、生活面だけでなく観光にとっても重要なので、周遊できる交通機関の観光資源として、鉄道が残るように総合計画の戦略に盛り込めないか。

佐々木淳：保育園の保育体制に、不満がある。町の保育だけでなく、民間の保育園も必要。

農地保全についての不安が減っていると言うが、外資による農地に関わる土地取引の実態があって、不安はある。

親交会に加入しない人がいる。コミュニティが縮小しているので、除雪などのあり方に対する不安もある。特に新しく住宅を道路の除雪の影響を受けそうな場所へ建設するなど場合があるなど配慮が不足している。条例で規定することができないか。

齊藤：その他、何かあるか。

山本：「ご意見シート」を用意したので、提出してくれればありがたい。反映していきたい。

齊藤：次回の委員会の日程は？

山本：町長が参加できる3/2～3/4の間は、どうか？

次回は、最後の委員会になる。

→3/2（水）の15時から、と決まった

終了（17:00）